

る次第である。

なお、タイ滞在中は、タイ人スタッフの協力的な対応に感心した。また、日本人スタッフの努力と相俟って、プロジェクトがほぼ順調に進んでいるのを実感し、かつ、無事任務を果たすことができたことを感謝するものである。

最後に、タイ国におけるデータ解析に際して、大変お世話になったプロジェクトのチーフアドバイザーである石川広隆博士、長期専門家の石塚和裕博士、樋口国雄氏、タイ王室林野局 Mr. Bunyalid Puriyakon そして、プロジェクトチームのリーダーである安藤宇一氏、長期専門家の大脇昭氏、米倉昭三氏および JICA 調整員である志賀忠夫氏の各氏に厚く御礼申し上げる。

新刊紹介

◎世界の熱帯材 (CHUDNOFF, M. : Tropical Timbers of the World. Agr. Handb. 607, U.S. Dept. Agr., Forest Service, Washington, D.C. 466 pp., 1984. US\$ 16.00)

著者の M. CHUDNOFF はアメリカ Madison にある林産研究所 (Forest Products Laboratory) の元研究員で、現在は引退している。本書は著者がまだ現役であった 1980 年に限定的に配布されたもので、昨年体裁を整え Agriculture Handbook として改めて出版された。ただしタイプ印刷で、内容的にもほとんど元のままである。本論は Part I: 熱帯アメリカの樹木, Part II: アフリカの樹木, Part III: 東南アジア及びオセアニアの樹木, Part IV: 材質と最終用途の対照表の 4 部からなっている。Part I~III でとりあげられているのは全部で 370 グループの樹木で、各パートごとに樹種が属の学名のアルファベット順に配置されている。記載の項目は、学名、商用名、分布、木の大きさ、木材の外観的特徴、比重、物理的性質、乾燥性、加工性、耐久性、防腐処理、用途、参考文献となっている。すべて一定の形式で書かれているので、世界の主要な熱帯材の特徴を知るには便利である。少し難をいうならば、欧米人の書いた類似書がしばしばそうであるように、アメリカ材、アフリカ材にくらべ、東南アジア、オセアニアの部では樹種のとりあげ方に疑問がある。例えばわが国で家具などによく用いられる *Sepetir* (*Sindora* spp.) が除かれるのに対し、ふつうは価値が低く、きまった用途もたない *Kulim* (*Scorodocarpus borneensis*) のようなものがとりあげられている。同様の例が他にもいくつかみられるが、これは著者がこの地域の木材の使われ方について十分に知らないためと思われる。(緒方 健)